

大使館便り

第144号 平成27年3月2日
在ポルトガル日本国大使館

《 目 次 》

1. 東博史大使からのメッセージ
2. 政治・経済関係
 - ・【ポルトガル・米国二国間常設委員会の開催】
 - ・【2014年の失業率】
 - ・【日本観光セミナーの実施（報告）】
3. ポルトガルのその他の話題
 - ・【リスボンのレストランの評価】
 - ・【海外に渡航するポルトガル人】
 - ・【リスボン地方の観光】
4. 広報・文化関係
 - ・【浮世絵-ポール・ウーゴ・ティランの版画・本・アルバムコレクション-】
 - ・【柳澤紀子版画展《*Fragmentos (i)materiais*》】
 - ・【シネマテッカにおける日本映画祭】
 - ・【女子サッカー国際大会「アルガルヴェカップ2015」の開催】
 - ・【ポルト市ホテル観光専門学校における寿司ワークショップ】
 - ・【パリ日仏高等研究センター研究フェロー募集】
 - ・【広報文化班からのお知らせ】
5. 領事関係
 - ・【注意喚起：最近の邦人等被害の増加・】
 - ・【在留届に関するお願い】
 - ・【当館領事業務へのご意見募集】

1. 東博史大使からのメッセージ

早春の候、アーモンドや梅の花も咲き始め、次第に春めいて参りましたが、皆様におかれましては、御健勝にて、御活躍のことと存じます。

今回は、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」及び「コエーリョ首相訪日の準備」の一環として、「アルガルヴェ地方」訪問、サンタ・マリア・ダ・フェイラ市における「最先端医療研究センター」の開所式、「フィゲイラ・ダ・フォス市」訪問、「日本観光セミナー」の開催について御紹介致したく存じます。

● 「アルガルヴェ地方」訪問

2月2日及び3日、私はファーロ市の「アルガルヴェ大学」、オリアオン市の「EPP0（水産養殖研究センター）」、「TUNIPEX 社」及び「DOCAPESCA」、並びに「ヴィラ・ド・ビスポ市」を訪問しました。

（各訪問の会談の冒頭、私から、「（1）昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問を契機として、両国関係は政治、経済、文化等あらゆる面で活発化している。（2）また、昨年7月には我が国はポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）にオブザーバーとして加盟した。これにより、日・ポルトガル関係は単に二国間関係に留まらず、CPLP 諸国における協力にまで視野が広がっている。（3）更に、本年第1四半期には、パソス・コエーリョ首相の訪日が予定されており、「アルガルヴェ地方」においては、特に「水産分野」での協力強化を図っていきたいと考えている旨」説明しました。）

（1）「アルガルヴェ大学」訪問では、アルガルヴェ大学と近畿大学との間でMOU（学術交流協定覚書）の締結に向けて準備が進められておりました。近畿大学は、1970年代からクロマグロの完全養殖を目指して研究を進め、2002年に完全養殖に成功しました。アルガルヴェ大学海洋科学研究所（Centre of Marine Science）は、この分野で高い研究技術と実績を有している近畿大学との学術交流に期待を寄せており、MOU に、いつでも署名できる状況であるとの説明がありました。

また、アルガルヴェ大学は「北海道大学」とも学術交流に関するMOU締結に向けた準備を進めているところであり、「北海道大学」とは、特に、欧州よりも日本の研究が進んでいる「化学品の安全性」に関して共同研究を進めようと考えており、同分野では、既に「バルセロナ大学」、「ボローニャ大学」及び「ヘリオット・ワット大学（エジンバラ）」とも共同研究を行っているため、アルガルブ大学を通じて、これらの3大学と「北海道大学」との交流も生まれれば良いと考えている旨の説明を受けました。

（2）オリアオン市の「EPP0（水産養殖研究センター）」、「TUNIPEX 社」及び「DOCAPESCA」（卸売市場）訪問に際しては、今後の水産分野での両国間の関係強化の方途について意見交換を行いました。

（3）「TUNIPEX 社」は、1995年からポルトガルで、日本式定置網漁を行い、大西洋クロマグロを輸出しており、オリアオン市にとって非常に重要な存在感のある企業の1つとなっています。

「水産分野において、「TUNIPEX 社」のような日本企業が増えることを期待している」旨、現地関係者からお伺いし、その活躍ぶりに感銘を受けました。

(4)「ヴィラ・ド・ビスポ市」は、種子島の西之表市と姉妹都市(1993年から)であり、今回の訪問を契機として、今後、人的交流、文化交流に加えて、水産分野等経済関係の強化にも努力することについて、意見が一致しました。

●2月4日、私は、サンタ・マリア・ダ・フェイラ市における「最先端医療研究センター」の開所式に出席しました。

(1) サンタ・マリア・ダ・フェイラ市(ポルト市から南に約25kmの所に位置する人口約14万人の都市)に「Lenitudes 社」が設立した新しい医療研究センターは、約6千平米の面積を有し、約2千万ユーロの民間投資が行われました。同センターは、ヨーロッパの中でも、また、国際的にも最先端の医療設備(細胞の細部まで見ることが可能な非常に高度で精密な画像処理技術、ナノテクノロジーを駆使した最先端の手術機器等により迅速かつ効果的ながん治療が可能)を有し、学際的ながんの研究・治療センターとして、国内だけでなく、海外からも含めて年間約1500人の患者を治療できる施設を目指しています。「Lenitudes 社」は、医療分野で活躍する民間会社であり、セトゥーバル外科病院、リスボンにあるマイオ・クリニック等を経営しています。本研究センターは、マイオ・クリニックの傘下であり、今般の開所式は2月4日の「世界がんデー」に合わせて行われました。

(2) 同日、パソス・コエリョ首相が、本開所式に出席し、保健分野(含む高齢者対策)における民間活力の活用の重要性等を強調するスピーチを行いました。なお、開所式終了後、私はパソス・コエリョ首相に歩み寄り挨拶を行ったところ、同首相からは、「この医療施設のように保健分野における日本の民間投資を期待している。現在訪日日程を調整して頂けると承知しており、訪日の実現を大変楽しみにしている」旨の返答がありました。

(3) 昨年5月に安倍総理はリスボンの最先端の医療研究施設である「シャンパリモー財団」を訪問されましたが、本医療研究センターは、パソス・コエリョ首相の出身地に近い北部地域におけるシャンパリモー財団に匹敵する民間投資による最先端医療研究施設として位置づけられます。

(4) ポルトガルでは、年間2万5千人以上ががんで死亡しており、社会の高齢化もあり年々増加傾向にあるため対策を迫られています。

(5) 本年第一四半期に検討されているパソス・コエリョ首相訪日に際し、先方より、訪日を実現する際の関心事項として、「高齢化社会における問題に対処するためのロボット技術等産学関連施設視察」の希望が寄せられております。今後、長期的な視点で、「高齢化社会に対応するための産業、医療分野」における両国間の官民の協力強化について検討していくことが重要と考えられます

●「フィゲイラ・ダ・フォス市」訪問

2月9日、私は、当国中部フィゲイラ・ダ・フォス市の「ジョアン・アタイーデ市長」を尊敬するとともに、「Lusiaves 社」及び「Briosa 社」を訪問しました。

(1)「フィゲイラ・ダ・フォス市長」表敬訪問（「なお、同表敬は、市庁舎ホールにて、セレモニー形式で実施され、市議会議長、市議会議員、同市助役他幹部職員、ビジネスマン、歴史学者、報道関係者等約40名が参列しました」）

（ジョアン・アタイデ市長の冒頭発言）

ア 東大使のご訪問を心より歓迎する。「フィゲイラ・ダ・フォス市」は、高速道路を利用し、リスボンまで1時間半、ポルトまで1時間、コインブラまで30分の場所にある。また、主要鉄道路線や港にも直接アクセスでき、企業活動を行う上で、非常に良い場所に位置している。既に「紙・パルプ」、「ガラス」、「プラスチック」に関連する企業が進出しており、2000人の雇用を創出し、年間15億ユーロを売り上げている。もちろん農業、水産業も盛んであり、ポルトガルを代表する魚の缶詰製造メーカーもある。

イ また、フィゲイラ・ダ・フォス市には素晴らしいホテルやレストランがあり、訪れた観光客に素晴らしい経験を提供している。豊かな自然を有するフィゲイラ・ダ・フォス市には、海水浴やバードウォッチング等を楽しむために毎年多くの観光客が訪れている。

ウ 本日の東大使の訪問が、最先端の技術力と経済力を有する日本企業によるフィゲイラ・ダ・フォス市への投資、日本人観光客の来訪に結びつくことを期待している。

（これに対する東大使答礼挨拶）

ア 皆様も御承知のとおり、日本に最初に到来したヨーロッパ人は、ポルトガル人であり、鉄砲伝来等ヨーロッパの文化・文物が日本にもたらされました。このため、パン、ポタン、カルタ等のポルトガル語が日本語として現在も生きているほか、日本人は、小中学校で、ポルトガルのことを学び大変親しみを感じています。

イ このように470年に及ぶ永きに亘る友好関係の中で、昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問は、現役の日本の総理大臣としては初めてのポルトガル訪問であり、歴史的・画期的な出来事でした。その際に発出された「日・ポルトガル首脳間共同コミュニケ」には、「貿易・投資促進のための協力」、「食品や農産物分野での協力の促進」等が掲げられ、昨年6月にはアスンサオン・クリスタス農業・海洋大臣が訪日して、ポルトガル農産物のプロモーション活動を行うなど、二国間関係は活発化しています。

ウ また、日本は、昨年7月にポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）へのオブザーバー加盟が認められ、日本企業がポルトガル企業とともにCPLP諸国で協力する可能性が広がっており、ポルトガルをプラットフォームとして、特にCPLPアフリカ諸国へ進出するチャンスが生まれています。

エ フィゲイラ・ダ・フォス市では、日本の「丸紅」が買収した「AGS社」が、同市で水道事業を行っている「Aguas da Figueira社」の株式を40%取得して同市での水道事業に参入していますが、本年第一四半期に検討されているパソス・コエーリョ首相の訪日を更なる契機として、フィゲイラ・ダ・フォス市への日本企業の進出、日本人観光客の来訪が活発化することを期待しています。

オ 本日は、これから、この地域の代表的な企業である「Lusiaves社」や「Briosa社」等を訪問し、今後の両国間の貿易・投資の促進の方途について検討するとともに、日本人観光客の来訪をどのように図るかについて考える機会にしたいと思っています。今回、フィゲイラ・ダ・フォス市に御招待頂き、アタイデ市長に改めてお礼申し上げます。

(2) 「Lusiaves 社」訪問

ア 「Lusiaves 社は、1986年に創業した鳥肉加工業者で、現在、1500人の従業員、14か所の配送拠点を有し、ポルトガル国内各地に商品を届けており、ポルトガル国内におけるシェアは80%程度に及びます。主な商品は、鶏精肉、鶏肉を使用したフライドチキン等の加工品であり、年間売上げは約28億ユーロに上ります。なお、扱っている鳥のほとんどはブロイラーであるが、地鶏、七面鳥や鴨も取り扱っているそうです。

同社は、加工される前に親鳥が産んだ卵のふ化から、屠殺、加工まで全て自社で行っているため、消費者に販売している商品の安全性には自信を持っているとのこと。

フィゲイラ・ダ・フォス市にあるこの工場は、1時間当たり8千羽の鳥を処理する能力を有しており、今後1時間当たり1万2千羽を処理する施設に拡張する予定であり、輸出の拡大を図りたいと述べていました。

イ 現在は、ヨーロッパ諸国の他、ベトナム、香港、アフリカ諸国に輸出している。また、香港を経由して中国にも輸出している。現在、中東諸国への輸出を検討しているところであるが、是非日本へも輸出していきたい」との要望がありました。

ウ これに対し、私からは、「2007年のポルトガルでの低病原性鳥インフルエンザの発生を受け、ポルトガルから日本への「家禽」及び「家禽肉」の輸入が停止されている。今後、輸入停止措置の解除に向けて何らかの進展が得られることを期待している」と述べました。

これに対し、「我が社の商品は、国際食品規格（IFS：International Food Standard）の認証も取得しており、これまで一度も鳥インフルエンザ等の感染症を発生させたことはない。食品の安全性には細心の注意を払っており、日本への輸出の実現に向けて、支援いただきたい」との要望が寄せられました。

(3) 「Briosa 社」訪問。同社は、1991年に創業した魚の缶詰製造メーカーで、フィゲイラ・ダ・フォス市で水揚げされたイワシ、サバ、マグロ、タラを用いて缶詰を製造しており、主な販売先は、ポルトガル国内の他、ヨーロッパ諸国であり、その他の輸出先としては、シンガポール、香港、マカオ、米国、カナダ、アフリカ諸国があり、今後、「日本への輸出を実現したい」との要望が寄せられました。

●日本観光セミナーの実施

安倍総理ポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」において、「観光分野での協力」が挙げられています。この関連で、リスボン観光フェア(BTL)開催の前日、2月24日、日本国大使館と日本政府観光局(JNTO)パリ事務所の共催にて、ポルトガル旅行業界関係者、航空会社、政府関係者等を対象として日本観光プロモーションを目的とした「日本観光セミナー」を、大使公邸で開催致しました。同セミナーでは、私から日本の観光政策と二国間の観光面での交流促進に関する挨拶を行った後、ヌーネス観光担当副大臣がポルトガルの観光政策を紹介しました。その上で、高橋 JNTO パリ事務所長、小野 JETRO リスボンリエゾンによる日本観光の魅力についてのプレゼンテーションが行われ、参加者は熱心に日本観光の魅力についての話に耳を傾けていました。

ここ2年間で、両国間の観光客数は大きく伸びていますが、この背景には、昨年5月の安倍総理訪問後の両国間の人的交流の拡大があると見ています。

観光セミナー開催の翌日の25日には、「リスボン観光フェア」(BTL)の開会式に参加しましたが、ヌーネス観光副大臣はもとより、来訪されたパソス・コエーリョ首相にもお会いし、観光分野での両国間の関係強化について確認することができました。また、来年2016年のBTLには是非「日本」としてブースを設け、出展したいと考えています。

3月に入り、季節の変わり目となりますが、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍されますようお願い申し上げます。

2. 政治・経済関係

【ポルトガル・米国二国間常設委員会の開催】

2月11日、第33回ポルトガル・米国二国間常設委員会が開催され、アソーレス自治州テルセイラ島にあるラージェス空軍基地(米軍の使用に供与)の縮小問題を中心に協議が行われました。同日付け外務省プレスリリースによると、ポルトガル代表団は米国当局の決定に対して改めて不快感を表明し、テルセイラ島の社会経済面における影響について一層考慮するよう伝達しました。今後、同問題の更なる協議のためワシントンで臨時会合が開かれる予定です。

【2014年の失業率】

国立統計院は、2014年第4四半期と通年の雇用統計を発表し、第4四半期の失業率は13.5%(前期比0.4ポイント増)、失業者数69万8300人、若年層失業率(15~24歳)34.0%(前期比1.8ポイント増)でした。

また、2014年通年の失業率は13.9%(前年比2.3ポイント減)、失業者数72万6000人、若年層失業率(同)34.8%(前年比3.3ポイント減)でした。

【日本観光セミナーの実施】

2月24日、日本国大使館と日本政府観光局(JNTO)パリ事務所の共催にて、ポルトガル旅行業界関係者、航空会社、政府関係者を対象として日本観光プロモーションを目的とした「日本観光セミナー」が大使公邸で開催されました。セミナーでは、東博史大使が日本の観光政策と二国間の観光面での交流促進に関する挨拶を行った後、ヌーネス観光担当副大臣がポルトガルの観光政策を紹介しました。その上で、高橋 JNTO パリ事務所長、小野 JETRO リスボンリエゾンによる日本観光の魅力についてのプレゼンテーションが行われ、参加者は熱心に日本観光の魅力についての話に耳を傾けていました。

現在、日本政府は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに訪日外国人2000万人の実現を目指して日本観光をアピールしており、当館としてもこの実現に向けて今後も日本観光の魅力発信に努めてまいります。



3. ポルトガルのその他の話題

【リスボンのレストランの評価】

2月4日付けのDN紙上で、リスボン市内の約600か所のレストランを審査員が訪問評価した結果が公表されました。評価は1本から3本のフォークの数で示され、全体で115か所が評価を受け、3本フォークと評価されたレストランは7か所で、その中には「Travessa」、「Belcanto」、「Feitoria」などが含まれています。

【海外に渡航するポルトガル人】

国立統計院(INE)によると、2014年7月から9月にかけて旅行した人の割合は30.1%で、前年同期(29.8%)を上回った。旅行の目的は、休暇、家族訪問、商用(仕事)の順となっており、前年同期と比較すると、休暇及び家族訪問が減り、商用が増えています。海外渡航については、休暇、商用が大半を占めています。

【リスボン地方の観光】

リスボン観光協会によると、昨年のシントラ、カスカイス、オエイラス、セトゥーバル等を含むリスボン地方の観光収入は約6億8000万ユーロで、前年よりも15.7%増加したそうです。観光収入が最も多いアルガルヴェ地方(6億9500万ユーロ)に次ぐ額でした。また、リスボン市に関する観光客の満足度調査については、10段階評価で「9.49」となり、前年の「8.32」より大きく上昇した。

【ポルトガルにおける自動車賞】

25日付けのDN紙によると、今年31回目を迎えるポルトガル自動車賞が発表され、最も優秀な自動車としてフォルクスワーゲン社のPASSATが選ばれました。ファミリーカー部門では日産のQuasquai、スポーツカー部門ではAudi TT Coupeが選ばれました。

4. 広報・文化関係

(イベント)

【浮世絵-ポール・ウーゴ・ティランの版画・本・アルバムコレクション-】

ポール・ウーゴ・ティラン氏所蔵の浮世絵コレクション(版画・本・アルバム)の展示が以下のと

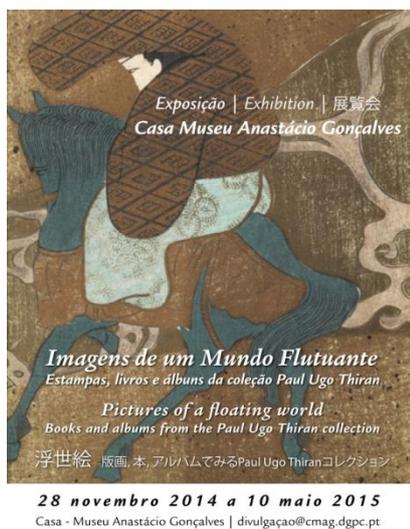
おり開催されています。詳細は下記までお問い合わせ下さい。

日時：2014年11月28日（金）～2015年5月10日（日） 10:00～18:00（月曜閉館）

会場：Casa-Museu Anastácio Gonçalves

住所：Av. 5 de Outubro, 6/8, 1050-055 Lisboa

お問い合わせ：divulgacao@cmag.dgpc.pt / 213540823/0923



【柳澤紀子版画展「*Fragments (i)materiais*」】

下記のとおり、柳澤紀子版画展が開催されています。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

日時：2015年2月19日（木）～2015年3月29日（日）

会場：Museu do Oriente

住所：Avenida Brasília, Doca de Alcântara (Norte), 1350-352 Lisboa

お問い合わせ：info@oriente.pt / 213 585 200

URL：<http://www.museudooriente.pt/2194/fragmentos-imateriais-.htm>



【シネマテッカにおける日本映画祭】

日本国大使館、国際交流基金、シネマテッカの共催により、以下のとおり日本映画祭が開催されます。詳細は下記までお問い合わせ下さい。

日時：3月2日（月）～13日（金）

会場：シネマテッカ（Cinemateca Portuguesa）

住所：Rua Barata Salgueiro 39, 1269-059 LISBOA

上映作品：

- ・「満員電車」（市川崑；1957年）
3月2日（月）21:30～ / 3月9日（月）15:30～
- ・「歓待」（深田晃司；2010年）
3月3日（火）19:00～ / 3月10日（火）15:30～
- ・「めがね」（荻上直子；2007年）
3月4日（水）19:00～ / 3月11日（水）15:30～
- ・「ハッピーフライト」（矢口史靖；2008年）
3月5日（木）19:00～ / 3月12日（木）15:30～
- ・「エノケンのとび助冒険旅行」（中川信夫；1949年）
3月6日（金）19:00～ / 3月13日（金）15:30～
- ・「菊次郎の夏」（北野武；1999年）
3月9日（月）21:30～
- ・「お早よう」（小津安二郎；1959年）
3月10日（火）19:00～

お問い合わせ：cultural@lb.mofa.go.jp / 21 311 0560





【女子サッカー国際大会「アルガルヴェカップ 2015」の開催】

女子サッカー国際大会「アルガルヴェカップ 2015」が以下のとおり開催され、日本女子代表チーム「なでしこジャパン」、ポルトガル代表を含む 12 チームが出場します。試合日程・会場等詳細は、下記 URL をご参照下さい。

日時： 3月4日（水）～11日（水）

会場： ファロ（Faro）市アルガルベ・スタジアム（Estádio Algarve）他

URL： http://www.jfa.jp/nadeshikojapan/algarvecup_2015/

【影絵「O SR. JAPONEIRA」の上演】

下記のとおり、ポルト市及びポルトガル椿協会の共催による「ポルト市椿まつり」(Exposição de Camélias do Porto) の一環として、田中紅子氏による影絵「O SR.JAPONEIRA」が上演されます。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

日時： 3月7日（土） 15:00、17:00, 8日（日） 15:30

会場: Mosteiro de São Bento da Vitória

住所: Rua de São Bento da Vitória, 4050-542 Porto

場所: 入場無料

お問い合わせ: 934558975

【ポルト市ホテル観光専門学校における寿司ワークショップ】

ポルト市ホテル観光専門学校において、以下のとおり、寿司ワークショップが開催されます。ワークショップでは、ユネスコにより無形文化遺産に登録された和食の紹介を行った後、寿司の調理実演並びに試食が行われます。詳細は下記までお問い合わせ下さい(入場無料・要事前申込)。

日時: 3月16日(月) 17:00~19:00

会場: ポルト市ホテル観光専門学校 (Escola Superior de Hotelaria e Turismo do Porto)

住所: Rua da Firmeza 71, 4000-228 PORTO

申し込み: elvira.silva@turismodeportugal.pt

お問い合わせ: cultural@lb.mofa.go.jp / 21 311 0560

PORTO
Dia 16
segunda-feira
de Março
2015
Escola de
Hotelaria
e Turismo
do Porto
17h00
19h00

WORKSHOP de SUSHI
Gastronomia Japonesa

Chef Masaki Onishi

inscrição
obrigatória
gratuita

Workshop
destinado
ao público
em geral

Estrutura do workshop:
I parte:
Apresentação das características da gastronomia japonesa (designada "Washoku") que foi classificada, pela UNESCO, como património intangível.
II parte:
Apresentação dos ingredientes e utensílios necessários na preparação do sushi, modo de confecção e degustação.

Condições de acesso:
A inscrição é gratuita e obrigatória para a Escola de Hotelaria e Turismo do Porto
E-mail: elvira.silva@turismodeportugal.pt

Local do workshop:
Escola de Hotelaria e Turismo do Porto
Rua da Firmeza, 71- 4000-228 PORTO
Tel: +351 220 044 800

Organização:
Embaixada do Japão em colaboração com a Escola de Hotelaria e Turismo do Porto

PORTUGAL
escola de hotelaria e turismo do porto

(お知らせ)

【パリ日仏高等研究センター研究フェロー募集】

フランス国立社会科学高等研究院日仏財団では、下記のとおり、5つの研究テーマにつき昨年2014年12月に新設されたパリ日仏高等研究センターの2016年度シニア及びジュニアフェローを公募しています。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

公募締切: 3月31日 (GMT) (火)

宛先 ffj@ehess.fr

お問い合わせ: ffj@ehess.fr

URL: <http://ffj.ehess.fr/ceafjp.html>

公募研究テーマ：

- 1) フランス銀行研究フェロー「マクロ経済学と経済政策：日本の経験から何を学ぶか？」
(http://ffj.ehess.fr/chaire_bdf.html)
- 2) ミシュラン研究フェロー「日本のイノベーション公共政策」
(http://ffj.ehess.fr/chaire_michelin.html)
- 3) ルノー研究フェロー「日本、韓国及び欧州における自動車利用の変容」
(http://ffj.ehess.fr/chaire_renault.html)
- 4) ヴァレオ研究フェロー「持続可能なモビリティのための革新的技術」
(http://ffj.ehess.fr/chaire_valeo.html)
- 5) エア・リキード研究フェロー「食習慣とその健康及び生態系への影響」
(http://ffj.ehess.fr/chaire_air_liquide.html)
- 6) その他の研究テーマによる競争的研究資金公募
(<http://ffj.ehess.fr/autres.html>)

[広報文化班からのお知らせ]

今後、当館主（共）催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えて E メールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、[こちら](#)までご連絡下さい。

5. 領事関係

【注意喚起：最近の邦人等被害の増加】

このところ、リスボンの観光地でのスリ・盗難被害が相次いでおります。中には強盗事案の際に怪我をされたケースも報告されており、大使館では、2月16日に海外安全対策情報を更新しホームページに掲載しておりますので、在留邦人の皆様におかれましても是非ご一読いただき、安全対策の参考としていただければと思います。

【在留届に関するお願い】

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、[ポルトガル国内での転居](#)、[日本への帰国](#)、[他国への転出等](#)、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてに E-mail にてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

【当館領事業務へのご意見募集】

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade、 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：consular@lb.mofa.go.jp